

編集顧問

生田 房弘	石塚 典生
糸山 泰人	岩田 誠
内山真一郎	臺 弘
大友 英一	梶 龍兒
金澤 一郎	高坂 新一
酒田 英夫	作田 学
島津 浩	杉田 秀夫
高倉 公朋	塚田 裕三
辻 省次	寺本 明
中里 洋一	中込 忠好
中野 今治	彦坂 興秀
平山 恵造	藤澤浩四郎
真柳 佳昭	水澤 英洋
水野 美邦	柳澤 信夫

編集委員

河村 満	(編集主幹)
神田 隆	桑原 聡
酒井 邦嘉	泰羅 雅登
三村 將	森 啓

編集同人

入来 篤史	岩田 淳
宇川 義一	内原 俊記
大隅 典子	岡部 繁男
木村 和美	久保 義弘
栗栖 薫	小林 靖
斉藤 延人	砂田 芳秀
高橋 良輔	瀧山 嘉久
武田 伸一	千葉 厚郎
平田 幸一	寶金 清博
星 英司	星野 幹雄
本田 学	松野 彰

(五十音順)

あとがき

今月号の特集は「顔認知の脳内機構」である。数年前に『人は見た目が9割』という本が話題になったことがあった。挑発的なタイトルはともかくとして、確かに外見はその人の印象を大きく左右するし、外見の中核にある「顔」の持つ情報量は測りしれない。顔情報の多くは視線や表情の動きを含めて動的であり、刻々と変化するダイナミックな環境に適応していくうえで決定的に重要である。人の社会性が高度に発達するにつれ、顔を認知するための脳基盤も進化、精緻化されてきた。

本特集記事を繙くと、今日の神経科学的知見の集積により、顔認知に関する脳内機構がここまで明らかになっているという事実には舌を巻く。顔認知は単純なテーマではない。アプローチの技法としても、行動観察、錯覚を含めた心理実験、fMRI・NIRS・事象関連電位・MEGといった機能画像解析など、多岐にわたる。ヒトと類人猿やサル、その他の動物との顔認知過程の異同をみる比較進化学的観点も重要であるし、ヒトにおいても健常者以外に、さまざまな精神・神経学的な疾患や病態による顔認知の障害を扱った神経心理学的研究や、乳児研究を中心に顔認知の発達過程の解明が進んでいる。顔認知のような複合的な問題はこのように、それぞれの立場からの研究が相補的に対話していくことが何より重要である。

顔認知の中で自己顔認知は特殊である。生体は一生、自分の顔を直接見ることはないから、自己顔認知は鏡像か写真画像の認知であるが、特に自己鏡像認知が自己他者区別と同じかどうかが問題となる。人の自己鏡像認知は生得的なものではなく、成立するのはだいたい1歳半〜2歳といわれている。そして逆に認知症の進行した状態では鏡像認知は崩壊する。不思議なことに、鏡像認知障害はアルツハイマー病ではしばしば目にする現象だが、血管性認知症では報告がない。例外的に意味性認知症では報告があるが、これはそもそも鏡を含めた表象的意味世界の崩壊であろう。したがって、自己の鏡像認知に関する脳内基盤は社会性ととともにシステムとして成立し、機能していると推測される。鏡像認知は長い間、ヒトを含めた一部の霊長類に限られ、マカクですら不可能であるとされてきた。したがって、「うちのネコは鏡を見て化粧する」といった発言を神経科学者は一笑に付してきた。しかし、最近ではゾウやイルカも自分の姿を認識できるとされている。先日、比較認知科学の渡辺 茂先生からはカササギも鏡像認知ができる例があると伺った。ゾウやカササギが鏡像認知を示すならば、うちのイヌでもできるかもしれないと夢は広がる。これだけいろいろなことがわかってきても、まだまだ顔の認知はわからないことだらけである。

(三村 將)

BRAIN and NERVE (第64巻 第7号)

2012年7月1日(毎月1回1日発行)

定価 3,990 円〔本体 3,800 + 税 5 % (配送料実費)〕

2012年 年間購読料(税込み、配送料弊社負担)

冊子版 35,670 円、冊子+電子版 個人 40,670 円/共有 46,100 円、

電子版 個人 35,670 円/共有 41,100 円

販売部直通電話 (03)3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693 番

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03)3817-5701 (小藤・風間・山崎)

FAX (03)3815-7802

E-mail bn@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/bn>

印刷所 (株)アイワード (011)241-9341

広告申込所 (株)ハイブリッジエージェンシー (03)3814-0089

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2012. Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
- 本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- JCOPY (株)出版者著作権管理機構委託出版物
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、その都度事前に(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。